

みんながえ顔になるように

上津小学校 三年

「学校に行きたくない」

わたしがそう思うようになったのは、二年生の二学期の初めのころです。なぜかというと、学校に行くのがとつぜんこわくなったからです。こわくなった理由は、自分でもよく分かりません。何となく学校に行くのがこわくなったのです。

そんなわたしに対して、二年生のクラスの友だちは、そうだん室でいっしょにきゅう食を食べてくれました。お母さんは、毎朝わたしといっしょに歩いて学校へ行ってくれました。お父さんは水曜日に仕事が休みなので、水曜日は学校を休んでもいい日にして、わたしといっしょにいてくれました。そのおかげで、わたしは安心して、気持ちを落ち着けたり、切りかえたりすることができたのだと思います。お父さんとお母さんと毎日ハグをして、おじいちゃんやおばあちゃんと会った時には、ハグをしてくれます。二年生の時のたんじんの先生は、

「〇〇さんのペースでいいよ。」と言ってくれて、わたしを安心させてくれました。私が学校を休んだり、早たいしても意地悪なことを言う人はいま

せんでした。

今、わたしは三年生になりました。三年生になる時は、「こわい先生ならどうしよう。」と思ったけれど、たんになの先生はやさしかったし、みんな遊びの時もいっしょに遊んでくれました。わたしが今、毎日学校に行っていてがんばれているのは、みんなも学校をがんばっているから、自分もがんばろうと思えるようになったからです。三年生になって、新しい友だちもできました。その子とはいっしょに帰ったり、遊んだりしています。二年生の時から同じクラスの友だちが、

「〇〇ちゃん、三年生になって学校すごくがんばっているよ。」

と言っていたとたんになの先生から聞いて、うれしかったです。

わたしは学校に行けなくなるというけいけんをしました。それは、とてもきつかったけれど、その時、まわりの人から、たすけてもらったから、今のわたしがあると思います。これから先、同じような人がいたら、次はわたしがその気持ちを分かって、よりそってあげたいです。